

地震がおきると、震源^{しんげん}付近では地面が持ち上がったたり、下がったりします。これを地殻変動^{ちかくへんどう}といいます。

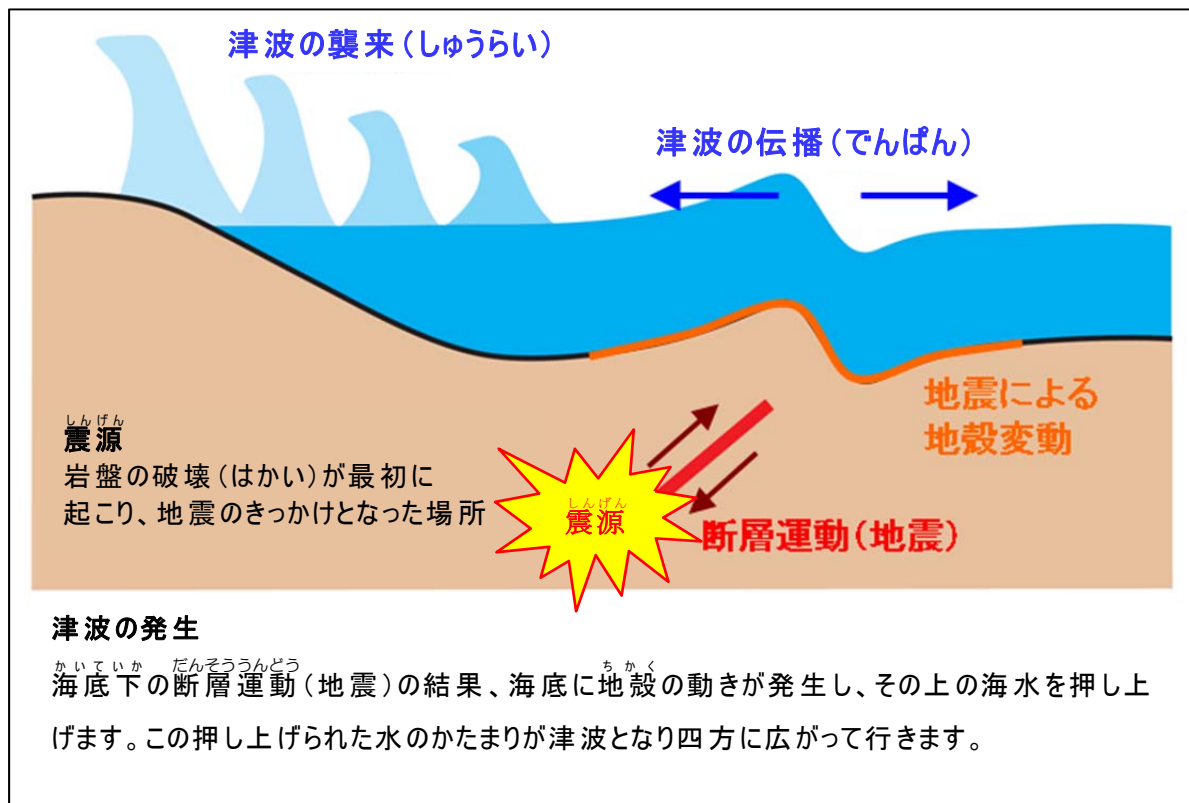
震源^{しんげん}が海底^{かいていか}下であさい場合、海底^{かいていか}が持ち上がったたり下がったりし、それにより発生した海面のもり上がり、または沈みこみによる波がまわりに広がっていきます。これが津波です。

また、「津波の前には必ず潮が引く^{しお}」という話を聞きますが、必ずしもそうではありません。

地震を発生させた海底^{かいていか}下の断層^{だんそう}のかたむきや方向によって、または津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引く^{しお}ことなく最初に大きな波が海岸に押しよせる場合もあります。

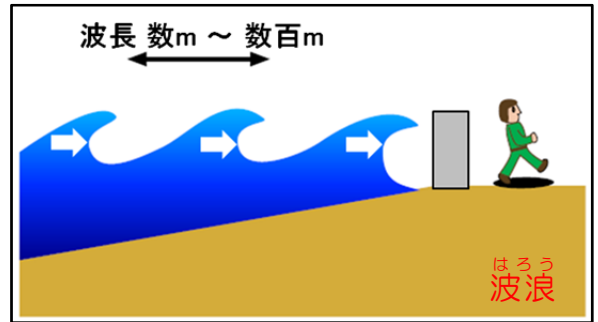
津波は何回も押しよせてきます。

最初に来た波が一番大きいとはかぎりませんので、津波警報^{つなみけいほう}、津波注意報^{つなみちゅういほう}が発表されている間は、絶対に海岸や川の河口^{かこうふきん}付近に近づかないでください。



【普通の波（波浪）のとくちょう】

普通の波（波浪）は、波と波との間の間隔（波長）といいますが、長くても数百メートルで、動いているのは海の表面だけです。



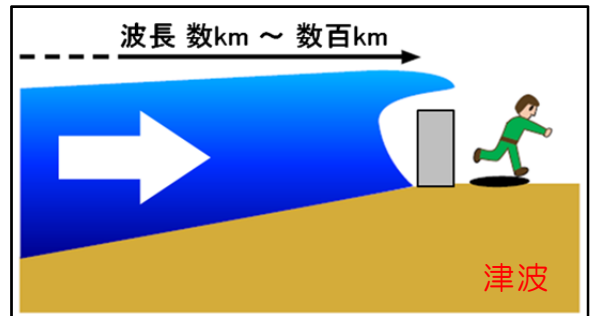
【津波のとくちょう】

一方、津波は波長がとても長く、数百キロメートルにもおよぶことがあります。

海底から海面まで海水全体が動いて巨大な水の塊（かたまり）となって、長い時は数十分海岸に押し寄せ続けます。

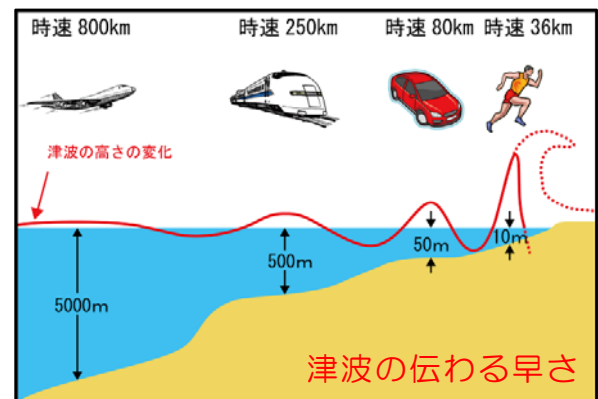
いったん引き始めると、押し寄せた時と同様の力で長い時間引き続けるので、建物などを一気に海中に引きこんでしまいます。

津波は何度もくりかえして襲（おそ）います。はじめにきた波が一番高いとはかぎらず、数時間以上すぎてから最も高い波が来ることもあります。津波警報（つなみけいほう）が解除（かいじょ）されるまでは避難（ひなん）を続けてください。



【津波のはやさ】

津波が進む速さは、海が深いところではジェット機並みですが、海が浅くなると次第に遅くなります。それでも海岸付近では100m走のオリンピック選手並みのスピードがあるので、津波を見てから走って逃げたのでは間に合いません。その遅くなった津波の後ろに次の津波が追いつくので、津波は海が浅くなるにつれ急激（きゅうげき）に高くなっていく性質（せいしつ）があります。



【津波が高くなる場所】

岬（みさき）の先や入江（いりえ）の奥のような地形の海岸では津波が集中（しゅうちゅう）し、津波の高さがさらに高くなる場合があります。

